

発刊にあたって

川崎市は大正13年に約5万人の市として誕生し、戦後の高度経済成長期における急速な人口増加を経て、政令指定都市となった直後の昭和48年には100万人を超え、平成29年4月には150万人を突破し、平成30年5月には151万人を超えました。

全国的には人口が減少に転じる中、川崎市は出生率が高く、生産年齢人口と呼ばれる15歳～64歳の割合が大都市で最も高いなど、若さあふれる勢いのあるまちとしてさらなる成長が見込まれています。

平成29年10月には市民の新しい交流、活動の拠点として、川崎市スポーツ・文化総合センター、通称「カルッツかわさき」がオープンしました。また、川崎フロンターレのJ1リーグ初優勝など、音楽のまちとしてはもちろん、スポーツのまちとしても活気ある発展を続けています。

こうした状況の中、本市における様々な課題や変化に的確に対応し、「成長と成熟の調和による持続可能な最幸のまち かわさき」を実現するための基礎資料として、統計情報は大変重要です。

この「統計データブック」は、「川崎市統計書(平成29年版)」及び「大都市比較統計年表(平成28年版)」などから、市民生活に関わりが深い統計情報を中心に、分野別、体系的に整理し、グラフや解説を加えてわかりやすく編集しています。

本冊子を通して、多くの皆様に活気あふれる本市の現況について理解を深めていただければ幸いです。



平成 30 (2018) 年 10 月
川崎市長 福田 紀彦

平成 30 年版 川崎市統計データブック 目次

I 経済センサスからみる川崎市の経済のすがた		1	36	犯罪認知件数	43		
1	産業別従業者数	2	37	火災発生件数	44		
2	区・町丁別にみた事業所数	4	38	交通事故発生状況	45		
3	売上（収入）金額の状況	6	39	こども・学校	保育所の概況	46	
			40		小学校・中学校の概況	47	
			41	福祉・健康	生活保護の概況	48	
			42		出生と死亡	49	
II 市勢データ		7	43	住居	着工新設住宅戸数	50	
1	人口	人口の推移	8	44	建て方別住宅の概況	51	
2		区別人口	9	45	選挙	52	
3		人口の自然増減と社会増減	10	46	財政	市税収入額	53
4		年齢別人口	11	47	市民意識	市民要望・評価と定住状況	54
5		区別昼夜間人口比率	12		「ちょっと一服」	どんなスポーツをする人が多いの？ どんな趣味を持っている人が多いの？ ～平成 28 年社会生活基本調査結果～	55
6		労働力状態	13	III 大都市データ		57	
7		外国人住民人口	14	1	人口・世帯数及び面積	58	
8		婚姻と離婚	15	2	人口動態	58	
9	事業所	産業別事業所及び従業者	16	3	年齢別人口	59	
10		区別の民営事業所	17	4	就業者数	59	
11		区別の産業別事業所数	18	5	事業所	60	
12		区別の産業別従業者数	19	6	工業	60	
13		従業者規模別の概況	20	7	商業	61	
14		資本金階級別の概況	21	8	貿易	61	
15	農業	農業の推移	22	9	住宅	62	
16		区別の農業概況	23	10	消費者物価地域差指数	62	
17	工業	工業の推移	24	11	市民経済計算	63	
18		区別の工業概況	25	12	治安及び災害	63	
19		業種別の概況	26		「ちょっと一服」	スマホ・パソコンの使用状況や生活 パターンはどうなっているの？ ～平成 28 年社会生活基本調査結果～	64
20		従業者規模別の概況	27	IV 川崎市近隣市区データ		65	
21	商業	卸売業・小売業	28	1	川崎市近隣市区地図	66	
22		卸売業の概況	29	2	データ一覧	67	
23		小売業の概況	30	V 基礎データ		69	
24		大型小売店の概況	31	1	川崎市	70	
25	産業・生活	海上出入貨物	32	2	川崎区	71	
26		卸売市場	33	3	幸区	71	
27		賃金・労働時間	34	4	中原区	72	
28		一般雇用保険	35	5	高津区	72	
29		一般職業紹介状況	36	6	宮前区	73	
30		経済活動別市内総生産（名目）	37	7	多摩区	73	
31	都市生活基盤	水道	38	8	麻生区	74	
32		下水道	39				
33		市バスの運輸状況	40				
34		主要駅の1日平均乗車人員	41				
35		ごみの処理状況	42				

端数処理により、各数値の総数と内訳の合計が一致しない場合があります。

利用上の注意

統計表中の符号の用法は次のとおりです。

「0」、「0.0」単位未満

「—」皆無又は定義上該当数字がないもの

「▲」マイナス又は比較減を表わす

「X」該当数字はあるが発表をさしひかえたもの

「…」数字が得られないもの